

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2025 年 4 月 1 日

殿

広島太平洋共同生コン株式会社  
 広島市中区南吉島2丁目4-41  
 TEL 082-244-5708  
 FAX 082-247-5082

配合計画者名 池内 信博

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準配合3月1日～5月31日・10月1日～12月10日 左記以外の期間備考欄に記述
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 - °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢 空気量	28 日 4.5 %		流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量	- cm

## 使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	-		
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> Oeq %	-		
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> Oeq %	-		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分		粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量 の範囲 %
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	広島県呉市蒲刈町田戸	A	化学法	-	2.80	-	2.55	-
	②	砕砂	大分県津久見市	A	化学法	5以下	2.95	-	2.66	7.0±2.0
	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	碎石	広島県呉市蒲刈町向	A	化学法	20～5	6.70	-	2.72	1.0±1.0
	②	碎石	大分県津久見市	A	化学法	20～5	6.70	-	2.72	2.0±1.0
	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名	フーリックSV10L	種類	AE減水剤標準形I種		Na <sub>2</sub> Oeq %	1.0			
混和剤②		-		-			-			
混和剤③		-		-			-			
細骨材の塩化物量		① 0.000 % ② 0.000 %	水の種類	上水道・上澄み水			目標スラッジ固形分率	- %		
回収骨材の使用法		細骨材	-	粗骨材	-	スラッジ水の使用法	-			

配合表 (kg/m<sup>3</sup>) 下段 (ℓ/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
311	-	-	171	574	245	-	596	397	-	1.56	-	-
102	-	-	171	225	92	-	219	146	-	-	-	-

水セメント比 55.0 % 水結合材比 - % 細骨材率 46.5 %

細骨材混合比(質量) 加工砂:砕砂=70:30  
 粗骨材混合比(質量) 粘板岩碎石:石灰岩碎石=60:40

備考 修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更いたします。  
 夏期6/1～9/30(2.33kg/m<sup>3</sup>)、冬期12/11～2/29(1.24kg/m<sup>3</sup>)

J I S 該当品

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。

配合計算書

呼び方	コンクリートの種類 による記号	呼び強度	スラブ 又はスラブ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項 (任意)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリ反応抑制対策の方法	BB
	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度 ・ 圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 - °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の 目標値の下限 又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
呼び強度を保証する材齢	28 日		流動化後のスランプ又は スランプフローの増大量	- cm	
空気量	4.5 %				

変動係数(V) 当社実積値 V = 10.0 (%)

配合強度(m)  
 $\alpha 1 = 0.85 \div (1 - 3.000V \div 100) = 1.214$   
 $\alpha 2 = 1.00 \div (1 - 2.000V \div 100) = 1.25$   
 $\alpha 1、\alpha 2$ の最大値を割増し係数とします。  
 $m = \alpha \times SL = 33.8$   
 以上より、配合強度(m) = 33.8(N/mm<sup>2</sup>)とします。  
 $\alpha = 1.250$   
 $m = 33.8(N/mm^2)$

水セメント比(W/C)  
 $W/C = 27.3 \div (33.8 + 15.8) \times 100 = 55.04(\%)$   
 W/C= 55.0 (%)

単位水量(W) 当社実積値 W = 171(kg/m<sup>3</sup>)

単位セメント量(C)  
 $C = W \div W/C \times 100 = 171 \div 55.0 \times 100 = 311(kg/m^3)$   
 $V_c = C \div \rho_c = 311 \div 3.04 = 102(Q/m^3)$   
 C = 311(kg/m<sup>3</sup>)  
 Vc= 102(Q/m<sup>3</sup>)

細骨材率(s/a) 当社実積値 s/a= 46.5 (%)

骨材の絶対容積(Va)  
 $V_a = \text{コンクリート容積} - (W + V_c + V_{air})$   
 $= 1000 - (171 + 102 + 45) = 682(Q/m^3)$   
 Va= 682(Q/m<sup>3</sup>)

単位細骨材量(S)  
 $V_s = V_a \times (s/a \div 100) = 682 \times (46.5 \div 100) = 317(Q/m^3)$   
 混合比 70 : 30(質量比) 容積比に換算 27.451 : 11.278  
 $V_{s1} = V_s \times (27.451 \div (27.451 + 11.278)) = 225(Q/m^3)$   
 $V_{s2} = V_s - V_{s1} = 92(Q/m^3)$   
 $S_1 = V_{s1} \times \rho_{s1} = 225 \times 2.55 = 574(kg/m^3)$   
 $S_2 = V_{s2} \times \rho_{s2} = 92 \times 2.66 = 245(kg/m^3)$   
 Vs= 317(Q/m<sup>3</sup>)  
 Vs1= 225(Q/m<sup>3</sup>)  
 Vs2= 92(Q/m<sup>3</sup>)  
 S1= 574(kg/m<sup>3</sup>)  
 S2= 245(kg/m<sup>3</sup>)

単位粗骨材量(G)  
 $V_g = V_a - V_s = 682 - 317 = 365(Q/m^3)$   
 混合比 60 : 40(質量比) 容積比に換算 22.059 : 14.706  
 $V_{g1} = V_g \times (22.059 \div (22.059 + 14.706)) = 219(Q/m^3)$   
 $V_{g2} = V_g - V_{g1} = 146(Q/m^3)$   
 $G_1 = V_{g1} \times \rho_{g1} = 219 \times 2.72 = 596(kg/m^3)$   
 $G_2 = V_{g2} \times \rho_{g2} = 146 \times 2.72 = 397(kg/m^3)$   
 Vg= 365(Q/m<sup>3</sup>)  
 Vg1= 219(Q/m<sup>3</sup>)  
 Vg2= 146(Q/m<sup>3</sup>)  
 G1= 596(kg/m<sup>3</sup>)  
 G2= 397(kg/m<sup>3</sup>)

単位混和剤量(Ad)  
 $Ad_1 = C \times \text{添加率} \div 100 = 311 \times 0.500 \div 100 = 1.56(kg/m^3)$   
 Ad1= 1.56(kg/m<sup>3</sup>)

配合表 (kg/m<sup>3</sup>)

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③	
311	-	-	171	574	245	-	596	397	-	1.56	-	-	
水セメント比			55.0 %	水結合材比			-			細骨材率			46.5 %